

自社製品開発でモノづくりの厚み

万全の布陣

アート科学社長の佐藤栄作は07年を同社の転換期と位置づけている。というのも会社社の組織化に加え、自社製品の開発に踏み切るからだ。02年に研究開発部門を設立。同社がさらにステップアップするには「モノづくりの最初の段階である研究開発から携わり、さらなる信用を顧客から得る必要がある」（佐藤）と判

断したためだ。

研究開発部門の設立に合せて東京工業大学、東北大学、京都大学と、名高い大学から博士号を持つ研究者が入社し、同部門は万全の布陣でスタートした。

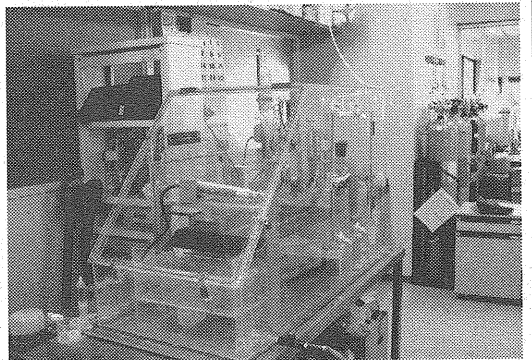
ナノシート研究

アート科学は03年に経済産業省の地域新生コンソー

シアム事業（補助金）に採択され、特殊なナノシートの開発に着手。07年度からは応用研究を始め、同年度

中に商品化する予定だ。自然環境と身体成分に近いマ

ニキユアや日焼け止めなどの化粧品、空気や水の浄化システムを、ナノシートを応用して開発するという。2-3年後に研究開発部門も独立させる予定だ。また数年内にはアートプロエンジニアリング（07年5月に有限会社エヌエス精



ナノシート製造装置

開発力磨き顧客の信用得る

アート科学 ④

勝つ

企業で、改善の余地はいくらでもある。佐藤がこう語るのには、理化学機器は需要を細かく見通せるような決まりものではなく、将来を確約されない厳しい市場だから

けること佐藤は言い切る。どんなに売り上げが伸び、業容を拡大しても増長する（となく）できませんと言わないのだ。このしたたかな姿勢こそが、アート科学の持つ最大の武器といえる。

「プライドを持って働き、プライドの持てる成果を生み出せ」。全社員がこの理念を共有し、ひたむきに働き続ける限り、アート科学の前進が止まることはないだろう。佐藤は今でも、気分転換のために日立の海へ出かけるという。「自分がモノづくり企業の社長になるとは思いもしなかった。もう漁師にはならないけど、今でも海は大好き。釣りは一生続けていくだろうな」。佐藤はそう言って笑う。がむしろに働いたあのころに比べると、どっしりと腰を落着かせて筆を握っているのかもしれない。（敬称略、この項おわり。茨城・中野寛が担当しました）

「不動態品を扱っている場により信用が目的。一方の確保も狙っている。今後の全

全社員が理念共有

「プライドを持って働き、プライドの持てる成果を生み出せ」。全社員がこの理念を共有し、ひたむきに働き続ける限り、アート科学の前進が止まることはないだろう。

株式上

ニエ
フエ

◇ジャス

「上場の目

アステム

光センサー式有酸素メーター

脂肪燃焼0.1g単位で表示

東京医大と共同で特許出願

発した「脂肪燃焼モニタ」を東京医大と共同で特許出願中。今後米国、韓国、台湾、中国にも出願の予定。

新製品は厚さ7ミリ、重さ10gのセンサーヘッドと有酸素メーター、脂肪燃焼量、疲労アラーム、心拍数などを表示する。本体で構成。足の大腿（だいたい）部にセンサーヘッドを付け光センサーで静脈血のヘモグロビンを計測、本体で脂肪燃焼量などを表示する仕組み。実際に運動しながら脂肪燃焼を確認できるの

で、モチベーションを高められるほか、疲労アラームが無理な運動を抑える。同社では現在、スポーツ機器メーカーやスポーツクラブなどを対象に事業化を打診している。また、今回の研究成果を東京医大が12月2日の日本体育測定評価学会で発表する。

レーザー光ガラス板切断装置

加工を行う構部以外の構